

# きらり四日市人

国際ジュニア大会 女子シングルス優勝  
全豪オープンジュニア出場

三重グリーンテニスクラブ所属 **若菜蘭さん**



若菜さんは、昨年11月に四日市テニスセンターで開催された全豪オープンジュニア出場をかけた国際ジュニア大会「2026DUNLOP ROAD TO THE AUSTRALIAN OPEN JUNIOR SERIES IN YOKKAICHI」の女子シングルスで優勝し、1月には、オーストラリアで開催されたジュニアの四大大会の一つである全豪オープンジュニアにも出場しました。初の四大大会出場という快挙を成し遂げた若菜さんに、これまでの経験や今後の抱負などをお聞きしました。

## 連日の試合を乗り越えて優勝

国際ジュニア大会は国内予選から連日試合が続き、全10試合を戦いました。体も心も疲労が溜まっている中で迎えた決勝戦で、思うように体が動かず、諦めそうになる場面もありました。それでも、直前の大会で準優勝に終わった悔しさを思い出し、気持ちを切り替えて戦い、逆転優勝しました。地元開催だったこと、周りのサポーター

トが手厚かったことも力になりました。

## 遊び心のあるプレーが持ち味

テニスを始めたのは4歳の時、テレビで観たのがきっかけです。思い通りのショットを打てたときの爽快感や、試合の中で相手と駆け引きをすることが楽しいです。

相手を前後左右に動かしたり、ラリーのテンポを変えたりするさまざまな球種を使った遊び心のあるプレーが得意です。

また、左利きなので、ボールの回転が右利きの選手とは少し違い、相手に対応しづらい場面があると思います。女子選手にはあまりいない、肩の強さを生かしたサーブも持ち味です。

いつも相手の心境やプレーの状況を見て、劣勢な場面でも引かずに、自分から攻める気持ちを忘れないようにしています。

## 悔しさを力に、次の挑戦へ

全豪オープンジュニアは、これまで経験したことがない会場の雰囲気、すごく緊張して自分らしいプレーができず、悔しい結果になりました。海外の選手とは体格やパワーの差を感じましたが、その分、戦略やスピードでカバーできるよう、これからの練習に取り組んでいきます。

世界の舞台でも自分の実力が通用すると実感できる場面もあり、今後への自信になりました。来年も、同じ舞台に戻れるよう頑張ります。

将来は、たくさんの人に応援してもらえるように心身ともに成長して、四大大会本戦で戦える選手になり、テニス界を盛り上げられる存在になりたいです。



国際ジュニア大会の優勝報告のため  
表敬訪問



全豪オープンジュニアでプレーする  
若菜さん



オーストラリアのメルボルンで

3月放送のCTY-FM「よっかいち わいわい人探訪！」でも紹介します。(放送時間は裏表紙へ)